

北九州市環境ミュージアム 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月9日(金) 14:00~16:30
- 2 場 所 西日本総合展示場 新館3階 301会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 松本構成員(座長)、江口構成員、鶴田構成員
堂野崎構成員、泉構成員
(事務局) 環境局環境学習課長、環境学習係長及び担当職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第、審査にあたっての留意点等について事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出
- 応募団体(タカミヤ・里山・エックス共同事業体)による提案に関するプレゼンテーション
- 応募団体(タカミヤ・里山・エックス共同事業体)の提案に関する質疑応答

(構成員) 構成団体である3つの組織について、関係性を詳しく聞きたい。

(応募団体) 現在、環境ミュージアムで働いている職員は、里山を考える会に所属している。

新しい情報、深みのある議論をするため、エックス都市研究所が、リサーチし、企画展等を提案することにより新しい息吹を注入している。

経理については、里山を考える会でもしっかり行っているが、歴史があり財務をチェックする体制が整っているタカミヤ・マリバー環境財団が二重チェックを行い、内部状況を管理している。

3社のパートナーシップが上手くいっていると考えている。

(構成員) 利用者数の数値目標が8万人と設定されているが、全ての年で8万人なのか。

また、出張ミュージアム、オンライン講座の館外の参加者目標人数2千人は、利用者数の目標値8万人に入っているのか。

(応募団体) すべての年で8万人の設定である。

また、館外の参加者数は目標値の8万人に入っていない。

(構成員) 出張ミュージアムが目標値8万人に入っていない理由は、提案されている入館料を無料にするためなのか、それとも自主事業で収入を得るためなのか。

か。

- (応募団体) 市の基本的な考えにより、出張ミュージアム・オンライン講座は利用者数にカウントしないことになっている。
入館料を無料にし、たくさんの方に来館していただきたいと考える。
また、出張ミュージアム（自主事業）が増えれば我々の収入は増える。
- (構成員) 環境学習の基盤として、環境ミュージアム以外でも活動団体、活動基盤があるが、環境ミュージアムの強み、位置づけをどうしたいと考えているのか。
- (応募団体) 北九州市は、自然系であれば山田緑地、リサイクル系であればエコタウンセンターがあり、施設は充実している。
色々な施設がある中で環境ミュージアムは中心の施設であり、我々は環境学習の全てをカバーしようとは思っていない。
リサイクルを深く学びたいのであれば、エコタウンセンターと一緒にやっていくなどのネットワークが我々にはある。
環境ミュージアムは環境学習体制のプラットフォームだと捉え、運営を行っている。
- (構成員) 構成する3団体からスタッフを無償でミュージアム運営に出すとあるが、そのメリットは何か。
- (応募団体) 3団体とも「お持ちより」の発想をしている。それぞれが特技を持っており、お金ではなく技術、知識を持ちよりミッションに向かう発想にグループ運営することを3者で合意している。
- (応募団体) エックス都市研究所は主に環境関係の調査、計画をメインで実施している。
新たなフィールドで新たなビジネスチャンスとして展開できると思い参加している。
- (応募団体) タカミヤ・マリバー環境財団はノウハウの提供、経理上の負担をしている。
- (応募団体) 実際に参加している職員に対しては、給与は直接支払わないが、団体に対しては役割に応じて分担し、支払っている。
- (構成員) 環境ミュージアムは北九州市民の環境促進力を強化するプラットフォーム、外部からの北九州市の環境対策を見学に来られる方のプラットフォームだと私も考える。
海外からの来館者が多いと思うが、プログラムを考えていない方の対応、また英語スタッフについて伺いたい。

(応募団体) 昨年度は海外からの来館は66団体・1,000人以上あり、最近はさらに増えている。

コロナ禍の前は2,000人近く来られていた時期もあった。

我々が今やっていることは市民の力だということを一番に伝えたい。

市民の力を支えたのは、みんなが携えてきたパートナーシップで取り組んできた結果だと伝えており、特に海外の方の対応には力を入れている。

英語専任スタッフだが、語学力に長けた資格を持っている選任スタッフが2名いる。

韓国語ができるスタッフも1名おり、外国語スタッフが充実している施設だと自負している。

(構成員) 「皿倉山頂上の最先端映像機器プロジェクト」及び「KAMIKURU プロジェクト」のミュージアムとの関係性を伺いたい。

(応募団体) 皿倉山のプロジェクトは、国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) という国の研究機関が高感度カメラを開発し、北九州市の空気がきれいかを判定し、きれい度を見える化するという「きれいな空気プロジェクト」を行った経緯がある。

NICT 側からこのプロジェクトで社会貢献したいという相談が我々にあり、我々としてもエコツアーがミュージアムにいなながら行えるというメリットがあり、お互いに Win-Win の関係の中でこのプロジェクトやっていると準備を進めている。

(応募団体) KAMIKURU プロジェクトは、元々、セイコーエプソンが東田に立地し20年経っているということで、新しい SDGs の取組の中で発表できないかとの話し合いがあった。

企業側の SDGs の取組として環境ミュージアムで初めてのチャレンジで、最先端の古紙リサイクル機の PaperLab を設置し、ただ置くだけではなく地域循環の実証実験を環境ミュージアムを中心に始めた。

現在、実証実験の拠点はヒューマンメディアセンターに移っているが、プロジェクトでは PaperLab の新機種の開発、スキームのアップデートや新しい取り組みを行っている。

新たな実証実験の場として環境ミュージアムを使っただけだと考える。

○ 構成員は、応募団体 (タカミヤ・里山・エックス共同事業体) による提案に関するプレゼンテーションと質疑応答を受けて、各自評価レベルを記入。

○ 構成員は、応募団体の評価レベルを発表し、構成員全員で意見交換及び議論。

(構 成 員) 6年程指定管理を行っているので信頼性がおける団体であると思う。

また、熱意のある取り組みだと感じた。

「適正(3)実績・経験」で、小中学校の出張ミュージアムが大蔵小学校しかあがっておらず、企業にシフトしているのだと思った。

プレゼンで明治学園小学校のミュージアムジャックが取り上げられてはいたが、学校に対する取り組みが少ないのではと感じた。

「効率性(3)指定管理料及び収入」で、提案書エコショップを充実するとあるが、どういう風に充実するのかが分からない。

エコハウスの活用は面白いと思ったので、今後、具体的に検討していただきたい。

「適正性(6)平等利用等」で、ベビーカーの無料貸し出しが2台とあるが、少ないと感じる。

全体としては、信頼のできる組織であり、各団体と連携が取れているようなので安心して任せられるのではないかと感じた。

(構 成 員) 実際に何年も実績があるので、実績ベースでの積み上げで具体的に提案されている。全体的には、普通より優れている項目が多かった。

ただ、できること・やりたいことの積み上げになっている。

基本方針・理念でプラットフォームを掲げるのであれば、できていないこと・やるべきことが抜けている。

私は企業側の人間で、事務所・職員で環境ミュージアムを使う機会がないが、提案を見る限り、環境ミュージアムをさらに活用しようとは思わなかった。

「効率性」の収支の中で、地域・親・子供・学校・海外をターゲットとし、収入を確保できると思うが、現在の延長といった感じがする。

もうちょっとターゲットを絞って、この部分は費用を抑えるといった提案が欲しかった。

「平等利用」については、地域でのポジショニングの中で、提案がもう少し欲しかった。

全体的には、具体的に実績ベースで提案があり、一般水準よりは少し高いと考える。

(構 成 員) これまで実績があるので、素晴らしい事業をやっていただけたと思う。

利用者数が5年間8万人だが、増やさなくていいのか。指定管理業務で求められているのは、環境ミュージアムを使って、市民に広く環境学習を伝えるということだが、提案ではイベントやオンラインを重視するとなっている。

管理運営の理念について市が求めている方針と若干ずれていると思う。

平等利用という観点からすれば、入館料を無料にすることはいいことだとは思いますが、収益の観点からいけば最大化になっていない。

(構 成 員) 全体的には、実績も十分であり、それぞれの団体が専門の強いところを持ちよった強固な体制であると感じた。

私が質問した「海外向けのプログラムの内容」、「皿倉山のプロジェクト」、「KAMIKURU プロジェクト」の具体的な答えがなかった。

「KAMIKURU プロジェクト」は私も関わっており、環境ミュージアムとの関係性は今まであまりないはずなので、今から何をするのかの説明が弱かった。

「社会貢献」で、提案書上、プレゼン上も力をいれた発表がなかった。提案書上、こども食堂の記述があるが、それを使ってSDGs教育をされる考えがあるのであれば、詳しい説明が欲しかった。具体的な構想が現時点ではないのであろうと感じた。

(構 成 員) 入館料は無料、出張ミュージアムは有料ということが気になった。

環境関連業界においては、通常使われる言葉でも一般の人にはなじみが薄いと考えられるカタカナ語や説明なしの略語がみられる提案書の記載が気になった。

子供から大人までいろいろな知識レベルの方々訪れる施設であるため、心のバリアフリーにも通じる点として更なる歩み寄りを期待する。

これまでの実績から考えて妥当な事業体と思われるが、細部にわたり更なる検討と改良によってよりよい運営がなされるよう希望したい。

(構 成 員) 効率性に不安がある。コロナが5類になってもなかなか利用者が増えていないのに、年間8万人を維持するような取り組みがあまり感じられない。入館料が有料の施設でも、来館したいと思う施設はある。無料だから来館するとは限らない。

(構 成 員) 入館料が一般・小中学生等細かく規定されているのに、全て無料にするのはいかがなものか。

一部を有料にすれば収入があるのに、それを捨てて無料にするリスクの想定がない。

(構 成 員) 稼げるまちと考えたなかで、ミュージアムではこういったことが出来るといった提案が欲しかった。

それをやるためには、稼げるところでしっかり稼がなければ継続性がない。

(構 成 員) 過去6年間の指定管理期間をベースに、業務の見直しや新しい提案がなされていることは評価できる。

(構 成 員) 長年の実績をベースに提案され、お任せできるレベルであると思う。

活動に力を入れる部分と収益を得る部分のバランス性を持ってほしい。

(構 成 員) 持続可能な観点から考えることが重要である。人員配置計画表では新規の

方が若くても30代であり、年代別の多様性が気になる。

今後のことを考え、レジリエンス（回復力）を持たせるためには、柱を何本も持つことが必要。

（構成員）企業向け、教育機関向けにオーダーメイドのプログラムを作り、積極的にアプローチし発信することが必要であると考える。

NICT等の色々なネットワークを使って積極的に生かし、5年間で具現化していただきたい。

- 構成員は、審査項目ごとの議論を踏まえ、各自評価レベルを再考し記入。
- 各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各審査項目の評価レベルを、
 - 1 「指定管理者としての適性」のうち、
 - （1）施設の管理運営に関する理念、基本方針について
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4
 - （2）安定的な人的基盤や財政基盤について
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4
 - （3）実績や経験などについて
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4
 - 2 管理運営計画の適確性に関する有効性のうち、
 - （1）施設の設置目的の達成に向けた取組みについて
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4
 - （2）利用者の満足度について
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4

効率性のうち、

- （3）指定管理料及び収入について
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、3
- （4）収支計画の妥当性及び実現可能性について
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4

適正性のうち、

- （5）管理運営体制などについて
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4
- （6）平等利用、安全対策、危機管理体制などについて
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4
- （7）社会貢献・地域貢献について
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4

が妥当であると決定した。

- 事務局は地元団体に対する優遇措置を反映させたうえでの合計得点を発表。
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、90点

- 検討会としての検討結果（総合的な所見）について、
 - 団体の審査項目毎の評価レベル及び合計得点により、検討会は、タカミヤ・里山・エックス共同事業体が北九州市環境ミュージアムの指定管理者の候補としてふさわしいと考える。
 - ただし、タカミヤ・里山・エックス共同事業体の提案は、事業性に課題を残すと考えるので、活動に力を入れる部分と収入のバランスを持つ運営を求めたい。

- 最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、令和6年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名称：北九州市響灘ビオトープ

所在地：若松区響町一丁目126番1号及び二丁目

施設内容：①施設概要

ネイチャーセンター

(鉄筋コンクリート造・1階建・延床面積約570㎡)

展示スペース、講義室、ボランティア室、事務室など

付帯施設

駐車場：バス10台、普通車65台、

身障者及び関係者用駐車スペース3台、充電用駐車スペース1台

ビオトープ園

湿地、台地、砂礫地、見晴台、園路など

②事業内容

自然環境保全及び学習に関する業務

ア ビオトープの自然環境の保全に関する業務

イ 自然環境の保全に関する学習及び交流の場を提供する業務

ウ 自然環境の保全に関する普及啓発業務

エ 自然環境の保全に関する情報の収集及び提供に関する業務

オ ボランティア活動の支援に関する業務

施設運営に関する業務

ア ビオトープの施設の提供、利用許可に関する業務

イ 利用者へのサービスに関する業務

施設の管理に関する業務

ア 建築物・設備の保守点検管理業務

イ 環境維持管理業務

等

その他管理運営に関する業務

(2) 指定期間

令和7年4月1日～令和12年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

名 称：響灘ビオトープ共同事業体

所在地：北九州市若松区高須西一丁目14番13号

主な業務内容：

・株式会社エコプラン研究所

自然環境調査業務、環境設計計画業務、野生動植物の保全や復元計画及び実施業務、環境教育業務、指定管理業務等

・株式会社福山コンサルタント北九州本社

交通調査・解析等の交通マネジメント系、地域計画・都市計画等の地域マネジメント系、動植物等の環境調査・環境影響予測等の環境マネジメント系等

・特定非営利活動法人北九州ビオトープ・ネットワーク研究会

ビオトープの保全、創出、また、これらをネットワークするために市民参加型の環境保全事業の開催および研究・調査等

2 指定の経緯

令和6年8月14日 募集要項配布

令和6年9月24日 募集締め切り

令和6年10月9日 指定管理者検討会の開催

令和6年10月 指定管理者候補を決定

(1) 応募資格

(2) 応募状況

説明会参加：4団体

応募件数：1団体（響灘ビオトープ共同事業体）

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会の検討結果を参考に指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- ・ [学識経験者] 小島 治幸（九州共立大学名誉教授）
- ・ [業務に精通する者] 中島 淳（福岡保健環境研究研究員）
- ・ [財務・経営に知見を有する者] 堂野崎 融（九州共立大経済学部教授）
- ・ [業務に精通する者] 上野 由里代（NPO 法人北九州・魚部副理事長）
- ・ [業務に精通する者] 御園 和穂（NPO 法人環境ネットワーク代表）

5 選定基準

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1	指定管理者としての適性
	(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針
	① 応募団体が、市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤
	① 長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていただけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
	(3) 実績や経験など
	① 応募団体が同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。
	② 応募団体が施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。
	③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2	管理運営計画の適確性
	【有効性】
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み
	① 施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。
	② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。
	③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られる提案があるか。
	④ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。
	(2) 利用者の満足度
	① 利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。
	② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。
	③ 利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。
	④ 利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。
	⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
	【効率性】
	(3) 指定管理料及び収入
	① 指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。
	② 収入が最大限確保される提案であるか。
	③ 完全利用料金制の場合、市に対して収益の一部を納付する提案があるか。
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性
	① 収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。
	② 経費の配分は適切であるか。
	③ 積算根拠は明確であるか。
	④ 再委託が適切な水準で行われているか。
	【適正性】

(5) 管理運営体制など	
①	施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
②	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
③	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
④	職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
⑤	地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	
①	施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。
②	利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
③	利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われるよう配慮されているか。
④	日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
⑤	防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。
(7) 社会貢献・地域貢献	
<社会貢献の視点>	
①	高齢者や障害者等の雇用促進が考えられているか。
②	労働環境の向上への取り組みが考えられているか。
③	SDGsの達成や環境への配慮に関する取り組みが考えられているか。
<地域貢献の視点>	
④	地域活動や地域交流などの取り組みが考えられているか。
⑤	地域団体や市内事業者などと連携した取り組みが考えられているか。
⑥	市民の雇用拡大に資する配慮が考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）